

学校における防災マニュアル（ミサイル）

五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校

I 北朝鮮から発射されたミサイル対応

（１）生徒が自宅にいる場合

- 災害発生 ⇒ <初期対応 / 情報収集>
- ⇒ Jアラートによる情報伝達（メール一斉送信 / 今後の対応の伝達）
 - ⇒ Jアラートによる情報伝達（警察・消防・町教委）
 - ⇒ 緊急対策会議
 - ・現状の確認、不足する情報収集の方法確認および検討、伝達手段の確保
 - ・緊急避難場所になった場合は学校管理体制、当面の生徒の措置等

（２）登下校時

- 災害発生 ⇒ <初期対応 / Jアラート→町内一斉放送により安全な場所に避難>
- ⇒ <避難誘導 / 必要に応じて現場へ>
 - ⇒ <確認 / 人員確認>
 - ⇒ 状況把握および家庭との連絡（メール一斉送信 / 今後の対応の伝達）
 - ⇒ Jアラートによる情報伝達（警察・消防・町教委）
 - ⇒ 緊急対策会議
 - ・現状の確認、不足する情報収集の方法確認および検討、伝達手段の確保
 - ・緊急避難場所になった場合は学校管理体制、当面の生徒の措置等
- ※ バスの乗降時には、点呼などの方法により、生徒の所在を確認する。

（３）生徒が学校にいる場合

- 災害発生 ⇒ <初期対応 / Jアラート→校内放送>
- ⇒ <情報伝達 / 屋外にいる場合は校内に避難指示>
 - ⇒ 状況把握および家庭との連絡（メール一斉送信 / 今後の対応の伝達）
 - ⇒ 関係機関へ報告（警察・消防・町教委）
 - ⇒ 緊急対策会議
 - ・現状の確認、不足する情報収集の方法確認および検討、伝達手段の確保
 - ・緊急避難場所になった場合は学校管理体制、当面の生徒の措置等

2 自宅への連絡体制

- 安心・安全メールの活用（保護者への周知）
- 学校のホームページ（保護者への周知）

3 その他

- 避難経路の確認
- 日頃から登下校中に被害に遭った時を想定し、安全な場所について確認をしておく。
- ※ 災害時に学校が避難所となった場合には、設置者と協議のうえ、職員も避難所運営管理チームの一員となり、救援組織と連携した援助活動を求められる場合がある。